

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】		
所在地	大阪府 貝塚市 加神1丁目10番3号		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2791300078-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と思いやりを忘れずに、安心できるゆったりとした場所を目指します」のホーム理念に添えるように日々頑張っております。前ははまだ空き室もあり、スタッフの人数も足りない状態でしたが、昨年12月で満床となり、スタッフも働きやすい雰囲気の良い職場を目指しております。2ヶ月に1度の運営推進会議にも12月は家族様や地域の民生委員さんにも参加頂きました。まだまだ地域の中に溶け込むには時間がかかりますが、入居されている皆様様が穏やかで過ごしやすい環境になるように、整理整頓は元より入居者様が心地良い生活の為の業務になるようにと考えています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは独自の理念を家族向けの便りや地域向けの広報誌にも掲載しホームで大切にしている事を伝え、職員は理念の実践に向けて毎月目標を掲げ日々の支援に取り組んでいます。利用者の言葉や思いを知った際は記録に残し、また意思疎通が困難な場合でもしぐさや目の動きを見て思いを汲み取り職員間で情報を共有しながらその人らしさを引き出すと共に馴染みの場所への個別外出にも繋がっています。利用者は日常生活の中で得意な縫い物をしたり、洗濯物干しやたみ、食事作り等出来る事に携わりながら活き活きと過ごしています。また地域との関わりについても散歩時の挨拶をはじめ畑をしている方に豆などをもらったり、近隣施設や高校生、ボランティア等との交流があり、地域の一員としてまたグループホームとしての役割を果たせるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼に毎月の目標を上げ皆で努力目標にして共有します	ホーム独自の理念を掲げ、玄関に掲示すると共に家族へ送付する便りや地域に向けて発信する案内等にも掲載しています。理念を実践するための目標を毎月会議時に話し合い立て、朝、夕のミーティング時に唱和しています。また職員の入職時にもホーム理念の意義を説明し理念の共有を図り、利用者主体の支援となるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で言葉を交わしたり、近くのコンビニへ買い物に行き自分で支払いされたり、また介護保険の更新時等ご本人をお連れして保険書を頂きに市役所まで同行いたします	町会には入会していませんが、町会長より情報をもたら文化祭に参加したり、神社で開催された寄席の招待を受け観に行っています。近所の畑をしている方から豆をもらったり、隣の他法人の事業所との交流もあります。また近くの高校生の実習の受け入れや高校の行事への参加、定期や不定期のボランティアの受け入れも行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への還元は難しいですが、今生活されている方がたがイキイキと過ごして頂く場面を貝塚高校の生徒さん達と関わることで認知症の理解を深めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフのスキルUP の状況や入居状況、催しのお知らせなどでホームの雰囲気を感じて頂いたり、ひやりはつとその種類・解決策を調べ皆さんに報告、また今問題になっている事なども相談して適切なホームを目指しています	会議は年に6回、家族や町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市役所職員の参加を得て開催しています。利用者の状況、行事や活動、事故やヒヤリハット等の報告を行っています。利用者の関わりについて相談しアドバイスももらったり、ヒヤリハット等ホームの対応方法を伝える事で参考にしてもらう等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議・グループホーム会議の担当の職員さん・相談事を解決に導く担当者と共に情報交換をしています、また事故報告など適切に報告し大事に至らないようにしています	市主催のグループホーム連絡会に出席しており、会議や研修等を定期的に行っています。相談事があれば窓口へ直接訪問し、ホームの現状を知ってもらいながら関わりを持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待の研修を通してスタッフが自覚・納得しケアが出来るようになっています。玄関の施錠は夜間のみです	身体拘束や虐待についての研修をホームの会議時に実施し、欠席の職員には個別に説明しています。管理者は言葉による制止が無いよう利用者の思いに沿うように日頃から伝え、不適切な場面があればその都度注意しています。玄関やフロアの鍵は施錠せず、職員間の声掛けを徹底し利用者の見守りをしており、外出希望があれば出来る限り一緒に付き添い出掛けています。	

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で今年度は上期・下期で高齢虐待の研修が出来ました		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社の研修で管理者が「権利擁護」、成年後見人制度の研修を受けました。ホームでも研修も持ちたいです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり不安の無いように説明し疑問点があれば丁寧に理解して頂ける様になっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時いろいろな声を聞けるように管理者だけでなくスタッフにも声を掛けて頂いてます、苦情・要望は直ぐにカンファレンスを開き皆に週知しています	利用者には買物の希望等日々の関わりの中で聞いており、ケアの中で実践しています。家族からは面会時や電話をかけた際、運営推進会議時、満足度調査等で聞いています。便り等で日頃の様子を伝え、得られた意見は職員で共有し、意見によっては行政と相談する事もあります。運動会の開催希望があり今後職員で内容を検討し進めて行く予定です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの面接を上期・下期の2回全員行いました。また体調により勤務時間の調整や工夫を行い退職者が出ないように気配りをしています	毎月全体とユニットの会議の他、毎日の朝夕の申し送りがあり、また委員会活動を通して意見や提案を出してもらっています。職員の意見から業務の流れを確認し職員間で話し合い臨機応変に業務内容の変更をしています。また管理者との年2回の面談もあり、日頃からも声を掛け職員の意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	認知症介護を研修にて理解し現場に反映出来るように促し、個々に遣り甲斐を見出せるように努めています。今のスタッフは3年後の介護福祉士は受験したいと希望する者が半数います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の研修制度を利用したり、各自スキルUPの研修は奨励しています、シフト以外に研修日の設定をしたり、学びやすい環境にしています		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム会議など管理者だけでなくスタッフ同行が必要な時に一緒に参加したり、社内間の研修を通じていろいろな事が学べるようにしています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年6名の入居があり忙しい中でもその方と関わろうとする姿勢で会話・言葉かけをしています。不適切な会話にならないように気になるところは随時指導しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のご本人様との関わり方はそれぞれですが家族を思う気持は同じです。、なるべく意に添える様に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が優先するのか、ご本人様・家族様と一緒に考え提案しています。傾聴ボランティアさんの導入もしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	この場が皆様の「家」でありスタッフは家族です、もし自分の母なら・おばあさんならとの考えでケア出来るようにしています。また軽作業を通して笑顔が増えたり発語があるとスタッフも癒されています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも定期的な外出・通院など皆様が家族様と関わっておられます、時々散歩・墓参りにも行かれています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が定期的に美容院へ行かれます、家族様にはホームでの訪問美容もありますと伝えると「母は若い頃からこの美容院の雰囲気が好きでいける間は連れて行きます」と笑顔で答えてくださいました	友人や近所の方、親戚等の訪問があった際にはお茶や椅子の準備をして居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。ホームからは市役所や馴染みの店に外食に行ったり、家族の協力を得て馴染みの美容院に行く際や家族が集まる自宅に帰る時にはホームで準備等を支援しています。また暑中見舞いを出す方の葉書記入や投函の支援も行い、馴染みの人や場所との継続の支援に努めています。	

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の個性を把握しお互いの出来ないところは補い、出来るところは協力して生活できるように支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になった方・入院中の方なども電話して下さったり、訪問して顔を見せて下さいます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護の業務は「人」が優先します、業務に人を合わせるのではなく、その方に合わせた業務でなくてはならないと日頃から指導しています	入居時に生活歴等の聞き取りや家族に希望やこれまで大切にしてきた事、趣味等を記載してもらったり、担当ケアマネージャーからも情報をもらい、基本情報にまとめています。入居後は日々の関わりから記録の様子や言葉を細かく残し、意思疎通が困難な場合も表情から変化を見落とさずユニット会議で話し合い思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域での生活状態、その方を理解することから始まり、関わることでいろいろな発見があります、スタッフが会話や活動の中から聞き取りそれを共有出来るように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務の一連の流れに合わせるのではなく、その日の様子や感情を大切に生活リハビリや活動が出来るようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、またそれぞれの気づきを集めより具体的な計画で支援していきます	介護計画は本人や家族の思いやアセスメントを基に長期目標6か月、短期目標3か月の期間で立てています。日々の記録に計画の実施状況を記録し、3か月毎にモニタリング、カンファレンスを実施し職員間で話し合い、6か月毎に再アセスメントを行いサービス担当者会議を開催し見直しています。必要があれば主治医の意見を確認し計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった事での変化や行動が記録に残るようにし、それをスタッフが共有出来るような介護記録を残しています		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の望んでおられる希望に少しでも近づけるような関わりや支援が出来るように、既製概念に囚われず自由な発想で視野を広げて考えるようにと指導しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りの環境・散歩コース・桜の季節の花見・コンビニへの買い物・役所への訪問と様々な資源を出来る限り活用しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの健康管理は必須です。定期的な往診・体調不良時の指示やレントゲンなどタイムリーな情報を伝える事で適切な治療がなされています	入居時にかかりつけ医について説明し全員が協力医に診てもらっています。これまでのかかりつけ医を継続している方もおり、基本的に家族と受診していますが、必要に応じて職員が同行しています。ホームの協力医による往診は月に2回あり、24時間オンコール体制となっており、週に1回健康管理による看護師の訪問もあります。また希望や必要時に応じて歯科往診や訪問マッサージも受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少し不安な部分の心配事や確認は訪問看護師さんが訪問してくれることで安心です、何でも相談できる関係を築いています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	河崎病院・葛城病院・貝塚市民病院・近隣の青山病院など常に連携が取れるように地域医療連携室と情報交換しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化から今の生活が維持できなくなるようであれば、毎月のお手紙や訪問時に時間を取りお話をしています、この事は日々のケアに関わる事なのでスタッフにも週知しています	入居時に重度化した場合の対応に関する指針に沿ってホームで出来る事や出来ない事を説明しています。これまでに看取り支援の経験があり、重度化した場合は家族の思いを確認し主治医から状態の説明をしてもらい、家族にも往診時に立ち合ってもらい意向の再確認を行っています。医師や看護師、管理者、職員で連携しながら看取りの支援に取り組んでいます。看取りについての研修は今後の課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験の少ないスタッフが多く、中々マニュアル通りには出来ないようです。救急搬送も体験し、このような場合は皆が対応できるようにと説明していますが、まだまだ至りません		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練はしていますが、地震の訓練は出来ていません、車椅子の多いホームなので2階の高いところに避難するようには聞いています(津波の予防です)	年に2回消防訓練を昼間想定で1回は消防署立会いの下行き、1回は独自で行っています。訓練は水消火器を使ったり、利用者も一緒に避難訓練をしています。消防署からは訓練終了後に講評やアドバイスももらっています。備蓄は3日分準備しています。訓練時に近隣にはポスティングで案内をしていますが協力を得られていない状況です。	夜間を想定した訓練の実施と共に、運営推進会議等で訓練の報告や状況の話し合い等地域との協力体制の構築が今後期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族である皆様を大切に思う気持はスタッフも同じですが、言葉かけの気遣いが足りないスタッフもおります、個別に対応し指導しています	接遇やマナー、プライバシーについての研修をホームで実施しています。管理者は基本的に丁寧語で対応する事を伝え、利用者との信頼関係が構築出来た際は一人ひとりに合わせた声掛けに留意しています。トイレ誘導の際には、周りに配慮し小声で伝える事や入浴時のプライバシー保護等にも注意しており、不適切な場面が見られた場合はその都度管理者が注意するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	もう少し、ゆっくり落ち着いてお話を聞く事を皆に指導し、こちらが決めた事を促すのでは無くいくつかの選択肢を上げ選んで頂くように心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはありますが、その日の体調や希望に添える様に、業務が主では無くご本人様を主と考えて生活出来るような業務を行うように指導しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の散歩前の身だしなみや服装・お花見の外出時の薄化粧・花火の日の浴衣と薄化粧・敬老の日の催し時の正装などメリハリの工夫をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、会話の中から「こんな食べ物はないか」「皆様の大好きな鮭にしましょうか？」など提案し、準備・お盆拭き・等して頂いています	利用者の希望を取り入れながら一週間分の献立を立て、利用者には包丁での皮むきや盛り付け、お盆拭き、食器洗い、食器拭き等出来る事に携わってもらっています。職員は食事介助や見守りをしており、職員1名が検食をしています。年間を通してお節料理や巻き寿司、素麺等の行事食を行い季節を感じてもらったり、誕生日には寿司の出前を取ったり、少人数や個別で外食に行く等食事が楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段家庭で食べているメニューをミキサー食・柔らか食・そして色合い・量など気を配り、水分量も個々の摂取量に足りない時はスタッフに申し送りして好きな飲み物を提供しています		

ニチケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きの出来る方は洗面台で、介助の必要な方はブラッシング・スポンジ・口腔ウエットティなどで対応しています。訪問歯科も月に2回来て頂き利用されている方もあります		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレ誘導ですが、その方の排泄に合った方法を行っています(定期的なおむつ交換・その時々トイレへの声かけなど)	個々の排泄を記録し、パターンやリズムを把握したり、サインを見てトイレへの声掛けを行っています。日中は基本的にトイレでの排泄を支援しており、夜間は希望に合わせてポータブルトイレを使用している方もいます。骨折した事により布の下着から紙パンツの使用になった方や病院からおむつを使用し入居した方もいますが、申し送り等でその都度話し合い支援を継続する事で元の状態に戻ったり、排泄状況が改善する事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の方の便秘は体調に大きな影響を及ぼすことを理解し、食事の工夫や軽運動・Drと相談し適切な排便コントロールを行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様に入浴を楽しんで頂ける様に適切な促しで強要しない、また時間帯も朝・夕でも希望があれば対応します、便汚染があった場合でも臨機応変に対応し、気持ちよく過ごして頂ける様にしています入浴剤の色々そろえています	入浴は午前中から夕食後の時間帯で利用者に声を掛け、週に2~3回を目処に入ってもらっており、毎日入っている方もいます。一人ひとりの湯温に配慮し、マンツーマンでゆっくり入ってもらい、入浴剤を使用する等気持ち良く入ってもらえるような支援に努めています。入浴を拒否する方には声掛けをする職員を代えたり、入浴に繋がった際の情報を共有しながら無理のない入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて自由に過ごして頂いています、布団干し・環境整備も常にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬・入浴後の塗り薬・排便コントロールの便秘薬など適宜対応しています。また皮膚の観察で潤う不足であればローション・軟膏など場面に合わせ対応しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味・好きなことなどを・・・と常に試行錯誤していますが、撮り合えず催し物は皆様と計画・準備してその日を楽しんで頂ける様に笑顔が見れるようにしています		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の桜の花見・近所のコンビニへの買い物・毎日の散歩・夏の落語会の参加・隣のエル・ケアさんのフラダンス参加・介護保険の更新時に役所までの受け取りなど、ご本人様が出来る事はして頂いています	年間を通して天気の良い日は散歩やコンビニ等に買物に行っています。介護タクシーを利用して地域の祭りや神社での寄席に出掛けたり、外食に行く等少人数や個別での支援を行っています。花見に行く際には弁当を持って出掛け、家族にも声を掛けています。また家族の協力を得て美容院に行ったり、法事等で自宅に帰っています。玄関外のプランターへの水やりやホームの庭に出て草取りをしたり、おやつを食べる等外気に触れる機会もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニでの買い物はご自分で欲しい物を選んだり支払いされます。和菓子屋・ケーキ屋さんなどもおやつを買いに行く事もあり支払い時はご自分で見ておつりなど頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字の書ける方は家族様へ葉書を書かれたりと支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場面でも過ごしやすい環境を意識して安定した生活が出来るようにしています。ホールのBGMや季節の花・室内の温度・採光など	玄関には植物や花を置き、共有空間には季節毎の飾りや手作りの作品、利用者の写真を飾っています。廊下に椅子を置いて一人になれる場所や和室で寛ぐ事も出来ます。出来る利用者と一緒に掃除をしたり、利用者の体感を聞きながら温度調整をしています。リビングのテーブルは相性を見ながら配置したり、トイレの表示をわかりやすくする等の配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でお友達とお話をされたり、テーブルを囲んで日々の生活の話・近所や家族様が暮らす場所の話がされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置は入居時に家族様と相談して決めていきます、その後生活する中で不便であったり、使い勝手が悪い時は模様替えの工夫もしています。服や下着なども体調に合わせて心地よい物をアドバイスしています	入居時に自宅を訪問し、馴染みの物を持って来てもらうように説明しています。利用者はこれまで大切にしている仏壇や位牌、家族の写真、手作りのパッチワークカバーの丸椅子、これまで使用していたテレビや机等を持ち込んでいます。また家族と相談しながら自宅で使っていたベッドと同じ物をホームでも使用する等、利用者一人ひとりに合った居室となるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全におトイレに行けるように場所がはっきり分かるようにして、自由に過ごして頂いています		